

症例カンファレンス 更年期障害

東方医療振興財団

令和6年2月
えみクリニック東大前
菅沼栄

更年期症候群

性別：女性 50才代 156 c m 59キロ

主訴：ほてり、多汗8カ月

現病歴：一年前閉経前後から、ホットフラッシュ、多汗、
顔面潮紅、心煩、ストレス多い（義父母の介護）、
耳鳴り、耳塞、頭重、体が重い、体重増加
(54^{キロ}→59^{キロ})

口渇、食欲正常、二便正常。

血糖HBA1C8.8(西薬使用)、LDL：180、BP正常

既病歴：緑内障（眼圧20）、出産2回

望診：顔色暗紅、舌くやや暗、舌下静脈怒張、苔薄膩。

切診（脈診）：脈滑弦

弁証論治分析

(更年期) 腎精陰虚 → 陰虚火旺 → ほてり、多汗、顔面潮紅

水不養木

介護の

ストレス →

肝鬱不疏

克脾失運

湿停生痰

瘀痰互凝

清竅閉阻

氣滯血瘀

難聴、耳塞、眩暈

肝鬱化熱上衝 眩暈、緑内障、耳鳴、心煩、口渴、舌紅、脈弦

中医病名：絶経 経断 経断前後症候

弁証：腎虚肝旺・瘀痰阻絡

論治：補腎清肝・化痰散瘀・通竅

処方：杞菊地黄丸⇒滋補肝腎・清肝明目

加味逍遙散⇒疏肝解鬱

桂枝茯苓丸⇒活血化瘀・緩消癥塊

温胆湯⇒化痰清熱

経過：食事療法、運動療法も同時に、

一年後にHBA1C 4.8、LDL 129、体重48キロに、
諸症状が改善された。

弁証論治の要点

- 1, 更年期の諸症状は腎虚肝旺による病証と考えられる、根本的な改善には補腎清肝の『杞菊地黄丸』を用いる
- 2, 肝鬱火旺の諸症状に対しては疏肝理気、健脾清熱の『加味逍遥散』を併用した。
- 3, 高脂血症、血糖、耳、目など瘀痰凝阻の症状に対して、活血化瘀の『桂枝茯苓丸』と化痰通竅の『温胆湯』を併用した。

杞菊地黄丸⇨眼精疲労、ドライアイ、眩暈

加味逍遥散⇨更年期基本処方、憂鬱、不安

桂枝茯苓丸⇨頭痛、肩凝り、子宮筋腫、内膜症、卵巣囊腫

温胆湯（竹茹温胆湯・星火温胆湯）⇨痰多、不眠、眩暈、
高脂血症、肥満